

# おきたま米 づくり情 報No.3

令和6年4月23日  
置賜農業技術普及課  
JA山形おきたま



## 育苗期間は暑い日が続く見込み！ 天気の変化に注意し、適切な温度管理を！



気象庁の2週間予報では、最高気温・最低気温ともに平年より「かなり高い」日が多く、暑い日が続く見込みです。気温の低い日や曇天の日でも、ちょっとした晴れ間でハウス内はすぐ高温になります。育苗期間中は、こまめに温度を確認し、遮光資材（高温晴天時）、保温資材（低温時）等の活用やハウス開閉の調整で、天気にあわせた管理を徹底しましょう。

### 1 適切な育苗管理　温度管理を徹底し、充実した丈夫な苗に仕上げましょう。

#### 育苗後半の温度管理

- 徒長苗は活着・分けつが遅れるため、苗を伸ばしすぎないように注意しましょう。
- 夜間の管理は、強い低温がない限りはハウスを開放し、外気に慣らして管理しましょう。

#### 【育苗ステージごとの適切な温度と注意点】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30~32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることが重要。 きめ細やかな管理を行う。
緑化期 (出芽後 2~3 日)	25℃	15℃	○外気温が 25℃以上の日は要注意。 午前中の早い段階にハウスを開ける。 ○低温時には保温に努める。
緑化期以降	20~25℃	8℃以上	○翌朝に霜が予想される場合は夕方の早い段階にハウスを閉める。

#### 育苗期の水管理

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方のかん水は根張り不良となるため避けましょう。

- プール育苗では、1.5葉期からハウスを開放し、入水します（上限は床土の高さまで）。2葉期以降は、常時湛水とします（箱の上 1cm程度の水深、最大でも草丈の半分以下）。苗が伸びやすくなるため、昼夜問わずハウスを開放します（降霜時除く）。

#### 育苗期の追肥

- 適切に追肥を行い、葉色が濃い健苗の育成に努めましょう。（次ページ参照）
- 育苗土に緩効性肥料（育苗一発肥料など）を使用した場合には、追肥は不要です。



## 【追肥の時期と追肥量の目安】

苗の種類	育苗期間	追肥時期	追肥量の目安
稚苗 (2.5葉)	20~25日	1.8葉期	窒素成分が10%の液肥の場合、現物1㍑に水を加え100㍑に希釈し(100倍希釈)、1箱当たり500ccを散布。
中苗 (3.5葉)	30~35日	1回目：2.0葉期 2回目：3.0葉期	

## 育苗期間中の病害対策

- 出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。
- カビの発生や、苗の生育異常がみられる場合には、早めにご相談ください。**

## 【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状		発生条件	発生抑制のポイント
リゾpus	覆土を覆う白いカビ		出芽時の高温過湿	○33℃以上の高温、過湿にしない
フザリウム	根のまわりに白色～淡紅色のカビ		出芽～綠化期の低温、湿度の変動が大きい	○低温を避け、適切な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない、ムレ苗 2葉期頃に葉の萎凋症状			
トリコデルマ	床土や糞の修正に白色～青緑色のカビ		水分不足、育苗土の低pH	○33℃以上の高温にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉葉身基部の黄白化、枯死、坪枯れ		高温過湿、育苗土の高pH	○高温過湿にしない ○発生した場合は苗を速やかに処分

## 2 適期の田植えと初期の水管理

田植えの適期は5月15日～20日頃です。【つや姫・雪若丸の田植えは5月20日まで】

### 田植え時の留意事項

- 田植え作業は、低温や強風の日を避け、**天候の良い日**を選んで行いましょう。
- 栽植密度は70株/坪、株当たり4～5本**を目安とします。
- 植付け深は3cm程度**に調整。深植えすると分けつの発生が抑制されてしまいます！
- 箱施用剤や除草剤は、ラベルを良く確認し、間違いのないように使用しましょう。

### 田植え後の水管理

- 田植え直後は、4～5cm程度の水深で活着を促進させます。活着後は、2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいで、分けつの発生を促進させます。

### 春季農作業事故防止啓発運動 展開中！ 　トラクターの事故に要注意！

- 春先はトラクター運転の感覚が取り戻せておらず、操作ミスが原因の事故が多くなる時期です。焦らず、気もまず、計画的に作業を行いましょう。
- 安全確認と予防対策（ブレーキ連結等）で公道でのトラクター事故を防ぎましょう。